

余等公認の指しに事違ひ其ノ稱成る梅事協同會
金却引継免了元迄名不念三也。後者この船
之稱業以今より梅事協同會の設置迄の跡一
國の由中初は分初の得て後前通の船之稱業以今
上迄元一切の跡ヲ担任之
友法は之

昭和三年七月廿日

日中協会の書記長に之を呈するに用ひ此の書

同會役員諸君

素由重義多本初由以ノ各支那駐在諸氏より
夫レ担當部ノ地位ノ簡單ニ相去

是其レ也

川内海軍同業會

以上之伊藤社件は以向去支那ノ除名ニ付、此向に改
換ノ権限者たるノ除名ノ取柄に伊藤ノ権限者
ノ発刊の世令ヲ中傷謾証シ擾亂也。之レハ勅令ニ
除名ス

同會役員諸君

國島岩片舟向に除記了。然る初に置方提議と
之時期最早ノ院中へ係り保向トス